

特定非営利活動法人
エイズ孤児支援NGO・PLAS

DECEMBER,
2020

PLAS POST

2020



 **PLAS**

わたしたちは、取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会を目指します



活動の御礼とご挨拶

新しいビジョンに向けて

本年も温かいご支援、応援を頂戴し誠にありがとうございました。設立から15年間の社会環境の変化や現場からの声に向き合う中で、2020年5月、私たちは新しいビジョン、ミッションを策定しました。

設立の2005年以来、エイズによって影響を受ける子どもたちが、未来を切り拓いてゆける社会の実現を目指し活動をつづけてきました。この15年でHIV/エイズを巡る状況には改善がみられ、現場ではエイズ孤児だけではなく、HIV陽性のシングルマザー家庭や貧困家庭などが支援を必要としており、わたしたちは都度、臨機応変に支援を届けてきました。こうした活動をさらに広げていきたいという願いを込めて、新たなビジョンに向かって一丸となって邁進していきます。変わらぬ応援を、どうぞよろしくお願いいたします。

代表理事
門田瑠衣子

01



PLASの新ビジョン

わたしたちは、取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会を目指します。

PLASの新ミッション

アフリカで取り残される孤児や貧困家庭の子どもたちが前向きに生きられるよう、地域社会と共に課題解決に取り組みます。

PLASはSDGsに取り組んでいます



アフリカでの活動一覧

国	プロジェクト
ウガンダ	<ul style="list-style-type: none">• カフェ・ビジネスによるシングルマザーの生計向上事業(CAFE)3期• HIV陽性者のアドヒアランス向上支援(PATH+)• HIV陽性ユースのための技術訓練事業(BRIGHT)• HIV陽性者家庭の生計向上・栄養改善のための在来種野菜栽培支援(SHINE)
ケニア	<ul style="list-style-type: none">• エイズ孤児と保護者に対するライフプランニング支援事業(SCOPE)3期• OVCと保護者を支える生活向上支援事業—在来種野菜と樹木の栽培を組み合わせた農業活動の導入を通じて(FRESH)3期• エイズ孤児を抱える貧困家庭の生計向上とキャリアプランニング支援事業(FLOWER) 草の根技術協力事業(草の根パートナー型)

活動のハイライト

2020年の成果



編集者より

2940人

に食糧と石鹸を支援

ウガンダとケニアで新型コロナウイルス感染症の影響を受けた人々に支援を届けました。



8840食

の食糧を届けました

1日1杯のおかゆしか食べることができない家庭へ食糧を届けることができました。



70家庭

を新たに支援

貧困家庭の保護者が、生計向上事業に参加し、農業やカフェビジネスを通して新たな技術を身に着けました。



260人

の子どもを支援

生計向上やライフプランニング事業を通して、PLASの支援を得て、前向きな社会と一緒に作る一員になりました。

354万円

のご支援を頂きました

2020年4月に開始した新型コロナウイルスアフリカ緊急支援クラウドファンディングでは、過去最大額のご支援をいただき活動できました。



82人

チャリティーオークションにご協力頂きました

2019年12月～2020年2月の世界エイズデーチャリティーオークション、2020年6月～の緊急支援チャリティーオークションの2つのオークションを通じて、のべ82名の方にご協力いただきました。
新型コロナ禍で様々な業界に影響が出る中、約820万円を調達。現地に支援を届けることができました。



スタッフ・役員一覧

アフリカと日本で共に活動する仲間たち

PLAS日本事務局・役員



代表理事
門田瑠衣子



事務局長・理事
小島美緒



海外事業マネージャー
三関理沙



海外事業担当
山口和美



広報・国内事業担当
下久禰愛



インターン
毛利奏恵



インターン
鈴木順子



インターン
鈴木友唯



インターン
林優希



インターン
杉本舞衣



インターン
谷野理星



インターン
野中あや



インターン
鈴木里紗



インターン
佐藤友莉菜



インターン
児玉健太郎



理事
谷澤明日香



副代表理事
一宮暢彦



理事
鶴見和雄



理事
横山裕司



理事
加藤琢真



監事
藤本俊明

PLASケニア事務所

ウガンダパートナー団体カユンガ



トビアス



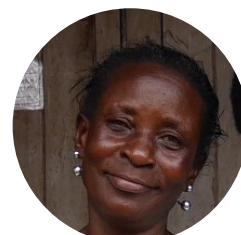
パメラ



代表
ジョイ



秘書
フィレスター



会計担当
ジェシカ

ケニアパートナー団体ビアジェンコ



代表
ベンソン



SCOPE事業担当
パンボ



SCOPE事業担当
ポウリン



SCOPE事業担当
ベナード

ウガンダパートナー団体マルチパーパス



代表
ムシシ



会計担当
ハジャラ



CAFE担当
エバリン



CAFE担当
ユダヤ



BRIGHT担当
ナマタ



BRIGHT担当
シシー



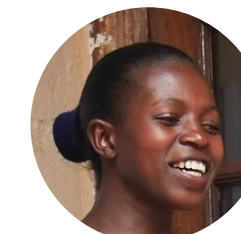
BRIGHT担当
ザイトウン



PATH+担当
ジョアン



PATH+担当
マヤンジャ



PATH+担当
クリスティン



緊急支援

「生きる」ために食糧と手洗いを

世界的に新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、ウガンダ・ケニアでも2020年3月に初めて感染者が確認されました。PCR検査や医療施設が十分ではないだけでなく、医療体制が脆弱なウガンダ・ケニアにとっては、感染拡大により、多くの人々が命を落とすリスクが高くなっています。

また、ロックダウンによる移動制限などで、経済活動が悪化し、その日暮らしの住民の現金収入は格段に落ちてしまいました。また、物流が減ったことにより、食糧や交通費が高騰し、生活必需品が買えない状況が続いています。

PLASでは、生活が困窮するHIV陽性のひとり親家庭など脆弱な住民へ、食糧と石鹸を配布しました。感染予防、安全を第一優先としながら、現地団体パートナーが食糧調達から配布までを実施しました。

子どもに1日一杯のおかゆしかあげられなかった。家に食糧がぜんぜんなかった。PLASの支援でちゃんとしたごはんを食べることができたの。本当にありがとう

アイシャさん (30歳)

食糧と手洗い活動を届ける

現地パートナーとの信頼関係により実現できた活動

緊急食糧支援

- 地域：ウガンダ共和国ルウェロ県、ジンジャ県、ケニア共和国ホマベイ県
- 目的：食糧不足に直面するHIV陽性のひとり親家庭などの最脆弱層に食糧と石鹼を提供する
- 受益者：ウガンダ 251家庭（約1506名）、ケニア90家庭（約540名）
- 期間：2020年4月～2020年12月現在

ウガンダでは最初の感染者が確認される前から、ロックダウンが発令されました。一晩で、徒歩移動以外は全く移動できない状況になり、飲食店以外は閉鎖。多くの住民の生活が困窮しました。そんな中で、現地パートナーと何度も話し合い、食糧を配布することになりました。

現地行政と連携しながら、情報を集めて、最新の住民のニーズを把握しました。食糧配布の内容は、米、豆、ポシヨ（とうもろこしの粉）などの保存できて、子どもも普段から食べているものを選びました。石鹼の配布の際には、正しい手洗いの方法を伝えていきました。ラジオやテレビのない貧困層は、飛び交う間違った情報や噂に不安を抱えながら生活していましたが、現地スタッフが電話を使い、精神面のサポートも行っていました。



ケニアでは、夜間禁止令等の移動の制限が設けられ、経済活動が悪化しました。住民は、野菜等をマーケットに販売しに行くことができずに、収入がなくなりました。

現地パートナーから食糧と石鹼配布の提案があり、ケニアと日本間の遠隔で打合せを重ね、2020年4月にすぐに実施することができました。村長の協力を得て、村長に手洗い指導を行い、手洗い場を各村に設置。村長から住民に正しい手洗いと情報を提供しました。住民が自分たちのコミュニティを守っていくという想いが感じられました。



感謝の気持ち

食糧支援で救われる子どもの命

コミュニティを代表して、支援を届けて下さったことを感謝申し上げます。PLASの支援で食糧を住民に届けることができました。

2020年4月と8月の2回の食糧支援は住民たちと子どもたちの生活に大いに助けました。支援された食糧から栄養を取ることができて、COVID-19からの影響を軽減することができました。コミュニティの住民と私たちピアジェンコが、今回支援いただいた方へ心よりお礼申し上げます。

ベンソン
ピアジェンコ
代表





ケニアでの活動

子どもたちにより良い教育を

私たちが活動するホマベイ県ビタ準郡は、ケニアの西部に位置し、ビクトリア湖に囲まれた地域です。漁業が盛んで、道端で揚げた魚を販売している女性たちをよく見かけます。漁師から魚を買い上げて、小さい街で販売することで生計を立てる人々が多くいますが、近年では乱獲により、魚の数が減り、販売するのも難しくなっています。また、この地域の多くの人々は、電気、水道、ガスがない生活を送っています。水は、家からビクトリア湖まで何キロも歩き、20キロの水タンクを頭の上に乗せて運びます。

子どもたちは何キロも山道を登り、学校に通います。保護者は子どもにより良い教育を受けてほしいという願いを持っていますが、自分が小学校を卒業していないことから、具体的に何をすればよいのか知らない人もいます。学歴社会のケニアで高校を卒業することが職を探すために重要になっていますが、教育の必要性や高校進学のための情報、資金など、さまざまなリソースが足りない家庭がおおいです。

フェンスを建設してもらったので、育てた野菜をやぎに食べられずにすんでいます。
本当に助かった。

見て、私の畑！
緑いっぱいでしょ？

ローズさん (60)

FRESH事業

持続可能な農業で自立を目指す

OVCと保護者を支える生活向上支援事業—在来種野菜と樹木の栽培を組み合わせた農業活動の導入を通じて(FRESH)

- 地域：ケニア共和国ホマベイ郡ビタ準区
- 目的：農業と植林を通して生計向上する
- 受益者：孤児や脆弱な環境にいる子どもの家族 25家庭
- 期間：2019年10月～2020年9月

半乾燥地域であるビタ準郡は、雨季には農業が可能です。しかし、ヤギなどの家畜に農作物が家畜に食べられてしまい、特に栄養価の高い葉野菜のを栽培できずにいました。そこで事業では、住民に一部の費用を負担してもらい、各家庭の畑にフェンスを建設しました。

また、地元の農業普及員を講師に迎え、農業の基本を学びました。何十年と農業を続けてきた住民でも、これまで農業研修を受けたことがない方がほとんど。学んだ事を早速実践しています。木の伐採が進んでいるこの地域で、農地に一緒に樹木を一緒に植えるアグロフォレストリーを取り入れ、持続的に生活を守る工夫を行っています。初めて木を植えるため、なかなかうまくいかずに枯らしてしまうこともあります。多くの住民が積極的に、木を植えるようになりました。



FLOWER事業

新たに、JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）を開始

エイズ孤児を抱える貧困家庭の生計向上とキャリアプランニング支援事業（FLOWER）

- 地域：ケニア共和国ホマベイ郡ビタ準区
- 目的：農業と植林を通じた生計向上とカウンセリングによるキャリアプランの作成
- 受益者：孤児や脆弱な環境にいる子どもの家族 50家庭
- 期間：2020年4月～2023年8月

JICAの支援により行う本事業は、PLASが今まで行ってきたライフプランニング事業と上記のFRESH事業を組み合わせ、さらなる事業の進化を目指します。50家庭に活動を届けていく中で、ライフプランニング支援をするカウンセラーの育成マニュアルや、前述のFRESH事業の要素を入れた農業マニュアルを作成します。ノウハウを体系化し、他地域や他団体に共有できるようにしていきます。

コロナ禍の苦境

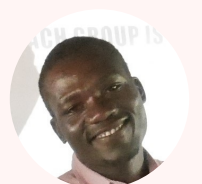
一変した私たちの生活

脆弱な環境にある住民のみなさんは今回COVID-19の影響で生活が大きく変わりました。

そこにPLASからの支援が届き、彼らの苦境を一緒に乗り越えることができました。

住民の皆さんからもたくさんの感謝の言葉をピアジェンコとPLASにいただきました。まだまだ支援が必要です。引き続き、みなさんからのご支援をお願い致します。

パンボ
ピアジェンコ
プロジェクト
コーディネーター





ウガンダでの活動

未来を変える力をつける

経済的にも社会的にも脆弱であるHIV陽性者を中心に支援を届けています。抗HIV薬は毎日服用しなければならず、十分な食事をとらずに服用すると副作用が強くて、体調を崩すことがあります。そのため、働けないことで収入が減り、生活必需品や子どもの教育費を支払うことができないことが多くあります。

子どもたちが小学校を中退したり、中高等教育に進学できなかったりすることで、将来の夢を持たずに暮らすことも少なくないのです。そこで、子どもたちが学校に通い続けることができるよう、ビジネスを始めるスキルをHIV陽性者のシングルマザーやユースに提供し、自立までの支援を行っています。また、成功体験を重ねることにより、自信がついて、前向きに生きられるようになることを目指しています。

今後は、支援の届きにくい取り残された子どもたちへ、さらに支援を届けるべく、現地パートナーと新しい事業を構想しています。

夫が亡くなり、自分もHIVに感染していることを知った。子どもがまだ小さく、とても不安。

カユンガというコミュニティに参加できて、みんなで農業ができて、よかった。

シルビアさん (38)

CAFE事業

困難を乗り越えて、ビジネスパーソンとして認められたママたち

カフェ・ビジネスによるシングルマザーの生計向上事業 (CAFE) 2期、3期

- 地域：ウガンダ共和国ルウェロ県
- 目的：カフェビジネスを通して生計向上する
- 受益者：HIV陽性シングルマザー 12名(2期)、9名(3期)
- 期間：2017年10月～2019年9月(2期)、2019年1月～2020年12月(3期)

2期のシングルマザーが自立し、事業を卒業。初めてのビジネスに、お母さんたちはやる気はあるものの、たくさんの不安を抱えていました。計算が苦手で、会計簿をつけるのに一苦労。現地スタッフに何度も、材料費と売上を記入するように言われ、苦戦していました。お客さんがなかなか定着しなかったり、近隣店から嫌がらせを受けたり、たくさんの課題を乗り越えてきました。今では安定して食事やスナック、飲み物を販売し、ビジネスを広げるための貯蓄もできるようになりました。

支援を始めたころは下を向き、自分の名前が書けなかったお母さんたちが、1月の卒業式では自信に満ち溢れ、沢山の感謝をPLASに伝えてくれました。収入が上がっただけでなく、周りの人からビジネスパーソンとして認められたことが嬉しかったようで、彼女たちの自己肯定感も高まりました。前向きになったお母さんたちはとてもたくましいです。

BRIGHT事業

ユースが手に職をつけ、自立できるように

HIV陽性ユースのための技術訓練事業(BRIGHT)

- 地域：ウガンダ共和国ルウェロ県
- 目的：HIV陽性者ユースがビジネススキルを得て生計向上する
- 受益者：HIV陽性者ユース 50名
- 期間：2019年4月～2021年9月

教育を受けられずに職がないユースへ技術訓練を提供しています。研修を受けたユースは、5人1グループでビジネスを始めました。メインのビジネスはヘアドレッシング。固定客がなかなかできなかつたり、技術が十分でなかつたり、まだまだたくさんの課題があります。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて、数か月店舗を閉鎖することに。現在は少しずつお客さんが戻っているところです。自立まで長い道のりですが、ユースは事業開始に比べると、背筋がピンとして、自信に溢れた表情に変わってきました。



3期のシングルマザーは新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、安定していたビジネスの売上が急に無くなり、生活が苦しくなりました。しかしながら、コロナ不況に陥る前に、技術と経験をつけ、ビジネスができるまでに成長していたことは不幸中の幸いです。これからもさまざまな苦境が立ちはだかるかもしれませんが、それを乗り越えるコミュニティの力を高めていきたいと思っています。

PLASの一員として

コロナ禍で進める事業

2020年10月からPLASに入職しました。コロナ禍で現地渡航ができない中ではありますが、メッセージや電話で現地とコミュニケーションを取りながら、事業を進めています。アフリカから遠い日本からでも、命をつなぐ支援を届けることができていることに、驚きとうれしさを感じています。今後は、現地スタッフとのコミュニケーションを向上させ、事業を進める力をつけていきたいと思っています。そしてアフリカ・日本のスタッフから信頼される職員となれるよう、日々努力を続けていきたいと思っています。

山口和美
海外事業
アシスタントマ
ネージャー





PATH+事業

正しい知識で自分たちの健康を守る

HIV陽性者のアドヒアランス向上支援(PATH+)

- 地域：ウガンダ共和国ルウェロ県
- 目的：HIV陽性者が正しく服用することで健康的に生きる
- 受益者：HIV陽性者グループメンバー140名、ヘルスセンタースタッフ39名
- 期間：2018年4月～2021年3月

HIV陽性者が利用するヘルスセンターのスタッフにカウンセリングスキルの研修を行いました。適切な薬を提供するだけでなく、精神的なサポートが必要であり、この研修を受けた多くのカウンセラーがHIV陽性者への対応が大きく変わったと報告してくれました。

事業の中間報告会で、カウンセリングスキル研修を受けたヘルスワーカーが、手をあげて自分の経験を話してくれました。

「患者のことを勘違いしていた。彼らがヘルスセンターに来れない理由がわかり、曜日や時間を工夫することで毎月来てくれるようになって嬉しかった」

研修を通して起きたヘルスワーカーの変化により、患者の行動変容を導くことができました。HIV陽性者が適切にカウンセリングや情報にアクセスできるようになり、正しく服用を続けられるようになりました。

HIV陽性者の行動変容まで起こせたケースはまだ少ないですが、HIV陽性者に一番精神的にも情動的にも重要な存在であるヘルスワーカーが、正しい情報提供やコミュニケーションを行うことにより、飛躍的にHIV陽性者の生活は変わりました。

団体名をヒーレコーズに改名しました

コロナ禍で進化する私たち

PLASの支援してくださる皆さんへ感謝申し上げます。私たちは団体創設16周年に当たる2020年に、マルチパーパスからヒーレコーズに団体名を変えることになりました。HIV/エイズの問題を中心に活動してきましたが、これからもより良い保健へのアクセスを広げるために、活動の幅を広げていきたいと思っています。今年度は、コロナ禍で事務所を閉めなければならない時期もありましたが、PLASと協働して、食糧支援を行うことができました。ご支援いただいたみなさんに心から感謝申し上げます。引き続き、ヒーレコーズへのご支援をお願いします。



ムシ
マルチパーパス代表

現地のママと一緒に成長した1年

PLASの海外事業マネージャーとして2年目

2020年度は、現地パートナーNGOスタッフと信頼関係を深めたり、受益者の全員に会いに行くことができました。現地の人々に色々なことを教えてもらい、新しいことにも挑戦できました。カフェ2期の卒業式で、お母さんたちが、とてもキラキラしているのを見て、今まで一番仕事にやりがいを感じました。私ももっとも人間として成長して、ママたちと同じくらいたくましい女性になりたいと思いました。



三関理沙
海外事業マネージャー



SHINE事業

農業を学び、生活を変えていく

HIV陽性者家庭の生計向上・栄養改善のための在来種野菜栽培支援(SHINE) 2期

- 地域：ウガンダ共和国ジンジャ県
- 目的：農業技術を得て、農業で生計をする
- 受益者：HIV陽性者 20家庭
- 期間：2020年1月～12月

HIV陽性者たちが自らの生活向上のために設立した団体、カユンガ。今年度はSHINE事業に20家庭が新たに参加してくれました。スモールビジネスで収入を得ているHIV陽性シングルマザーの家庭では、教育費が払えずに、子どもたちが学校から返されることもしばしば。そこで、グループで土地を借りて農業を始め、生計向上を目指しています。体調管理が大切なHIV陽性者が栄養価の高い在来野菜を育て、収穫し、家族と食べることができるようになりました。これで食費が減るだけでなく、余剰分を販売し、収入にもつなげています。



今までの農業の研修を受けたことがない参加者たちばかり。農業の座学も実践研修もみんな真剣な表情で参加していました。

昨年度まで支援を受けていた1期のメンバーが先輩メンバーとして、農業やグループ貯蓄について細かいアドバイスをしている姿を見て、とてもたくましく感じました。先輩メンバーの収入が増えて、貯蓄額も増えて自信に満ち溢れているため、後輩メンバーの良いロールモデルとなってくれています。

PLASと一緒に歩んできた

困難を何度も乗り越えて

干ばつ等の自然災害や今回ような新型コロナウイルス感染症が広がると、脆弱な環境にいる私たちから死んでいきます。私たちの生活は困窮をすることが多く、影響を受けやすい環境にあります。そうした中、何度も、カユンガのメンバーと一緒に手を取って、闘ってきました。カユンガは、2013年からPLASと一緒に活動しています。私たちの生活がグループ貯蓄やプロジェクトのおかげで大きく変わりました。本当に支援してくれている皆さんに感謝しています。



ジョイ
カユンガ代表



国内での活動

変わりゆく状況に柔軟に対応しつつ、新たな1年に

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた年でした。2020年2月からは、全員が在宅リモートで勤務を進めることに。それまでもリモート勤務を取り入れていたこともあり、柔軟に状況に対応することができました。また、緊急支援を開始する際には、クラウドファンディングの準備を迅速に進めることができました。

他方、対面イベントの自粛などによる、支援者の方とのコミュニケーション機会の減少やイベントによる収益の減少など、課題もあります。来年度も、こうした課題に前向きに取り組み、新たなコミュニケーション・イベントの在り方を模索していきます。

また今年度は、2年間にわたり伴走して頂いたSVP東京のサポートにより、中期計画の作成、ビジョン・ミッションの見直しなど、団体の今後の指針となる大切な事柄を決めることもできました。新たなビジョンの下、新たな気持ちで次の1年も取り組んでいこうと思います。

幸せを作れる人に

主体的に取り組む大切さと楽しさ

当初、何も出来なかった私に対して、職員の方や先輩インターン生の方が丁寧にフィードバックして下さいました。また私の性格を考え主体的に取り組める機会を与えて下さるなど個人に合わせた指導体制が整っており、これまで受け身で生きてきた自分にとって、日々、主体的に取り組む大切さと楽しさを学びました。

この経験に感謝し、将来は人々の幸せを作れる人間になりたいです。



児玉健太郎
インターン

チャリティーオークション

過去最大の63名の皆さまにご協力いただきました！

2019年12月～2020年2月にかけて実施した世界エイズデーチャリティーオークション、2020年6月1日より実施した＜新型コロナウイルス＞緊急支援チャリティーオークションを通じて、合計63名の方にご協力いただき、8,205,953円を現地への支援としてお預かりすることができました。多くのご協力に感謝いたします。

【全ご協力者様（敬称略・順不同）】 つるの剛士、香川真司、
渋谷日向子、丹羽孝希、カナヘイ、森泉、尾上右近、黒羽麻璃央、
ナジャ・グランディーバ、浅野いにお、浦沢直樹、平野レミ、
鈴木福、和田明日香、青柳文子、石田純一、三好康児、富安健洋、
鳥越裕貴、清塚信也、my、高橋留美子、広末涼子、葉月かなえ、
角中勝也、荻野貴司、佐藤拓也、シゲタサヤカ、澤穂希、伊原六花、
八代亜紀、紺野美沙子、川浦良枝、mame&co、サタケシュンスケ、
アグリム、絵子猫、和田毅、甲斐拓也、内川聖一、爆笑問題、
にしむらゆうじ、カメントツ、宇佐卓真、柄本弾、上野水香、
ニッチェ、北見けんいち、嶋村侑、瀬戸あゆみ、きくちゆうき、
アンミカ、安田尚憲、三森すずこ、ナジャ・グランディーバ、
田中雅美、一ツ山チエ、植田まさし、林家たい平、三浦友和、
倉知玲鳳、中村祥子、米倉涼子、櫻川めぐ

イベント

オンライン開催で遠方からも気軽に参加できる場に

2019年1月まではオフラインで開催していたイベントも、3月以降は、すべてオンラインでの開催に移行しました。

2019年10月から1月までに5回のイベントで計57名のご参加、5月からは「わたしたちの国際協力」「新しい働き方」等をテーマに13回のオンラインイベントを開催。見逃し配信を含め計413名の方に参加頂きました。また、2019年12月に開催された大阪マラソンの支援先団体に初めて採択され、20名がチャリティーランナーになって下さいました。

イベントがオンラインの開催に切り替わったことで、遠方にお住まいの方も含め、今までコンタクトすることのできなかつた多くの方との接点を持てるように変化したことは大きな成果です。

半面、オンラインでの双方向のコミュニケーションについては、試行錯誤しつつ、より良い形をつくっていきたいと思います。

国内事業の大切さ

オークションを担当して

私の担当した新型コロナウイルス感染症の緊急支援チャリティーオークションは、6ヶ月間開催され、PLAS史上最長のチャリティーオークションとなりました。

「NGO」というと、国外の現地での活動が目されますが、インターンを通じて、その活動は日本国内の皆さまの温かいご理解・ご賛同によって支えられていると実感しました。

また、オークションが、著名人の方々のみならず、参加されたファンの方々の皆さまにも、当会について知っていただく機会となっていることに喜びを感じます。

鈴木順子
インターン生





また、2020年6月には、Facebook内で、支援者限定のコミュニティ「PLASサポーターグループ」を開始しました。

現在、PLASの寄付者様2,058名中、224名（2021年2月現在）の方に参加頂き、公式ページや公式SNSでは発信しきれない情報や、ここだけの話を投稿。サポーターの方とコミュニケーションを楽しんでいます。

*ご参加希望の寄付者方は、info@plas-aids.orgまでご連絡ください。

来年度も、共にアフリカの課題に向き合う皆さまに、よりアフリカを身近に感じて頂き、コミュニケーションを活性化できるように、進めてまいります。

サポーターグループ開始

SNSでの発信の強化など、コミュニケーションを大切に

PLASをマンスリーサポーターとしてご支援くださっている方は、178人（2020年11月末現在）で、クラウドファンディングも含めた単発の寄付や物品を通じたご寄付なども含め、今年も多くの方に支えられた1年でした。今年度からはインスタグラムやTwitter、Facebook、noteなどSNSを活用し、より気軽にPLASにアクセスできるよう発信を増やしました。

法人連携

多様な連携でひろがる可能性

今年度は、途中から新型コロナウイルス感染拡大による影響を受けながらも、これまで継続して連携頂いてきた法人様からは、継続して連携いただくことができました。また、自然電力のハチドリ電力様との連携がスタートするなど、より多様な連携の輪が広がっています。



レッドリボンさっぽろ様

手づくりキルトを製作して、現地の笑顔につなげる

私達は長きにわたり様々なキルトを製作し、アフリカのエイズ孤児に寄贈してきました。しかし、HIV治療はここ20年で進化し、キルトではなく長期療養に向けた支援が求められています。レッドリボンさっぽろでは、新たな支援策として、4年ほど前から製作したキルト作品を販売し、その収益をPLAS様にお送りしています。私たちの支援が現地で活動する皆様の笑顔につながっていることは大変喜ばしく、これからも継続をしたいと思っています。

ハチドリ電力様

自然電力に切り替えて支援にもつながる仕組みを

自然エネルギーを販売しているハチドリ電力はPLASさんと「電気支援」という連携をしています。

具体的には、電気をハチドリ電力に切り替えると毎月の電気代の1%がPLASさんの支援につながります。電気代の1%という、金銭的負担が少なく継続的な新しい支援の手段として、よりたくさんの方がよりよい社会をつくるきっかけになれば、と思っています。

【支援/協力頂いた企業・団体様（順不同/敬称略）】

株式会社バリューブックス、マイラン製薬株式会社、株式会社GME、株式会社 BORDERLESS JAPAN、株式会社STYZ、特定非営利活動法人 レッドリボンさっぽろ、カトリック高輪教会、株式会社FAB、freee株式会社、ヤフー株式会社、ソフトバンク株式会社、株式会社アイデアインターナショナル、パッケージアート株式会社



助成金・補助金

現地のニーズと組織強化にご支援いただきました

新型コロナウイルスが現地で感染拡大する中、現地の活動と組織強化を後押しする助成金・補助金を多数いただきました。「みてね基金」ではアフリカ緊急支援へ約520万円の助成をいただき、JICA草の根技術協力事業として、PLASがケニアで行う「エイズ孤児を抱える貧困家庭の生計向上とキャリアプランニング支援事業」が採択されました。

【助成金・補助金一覧（順不同）】公益信託アフリカ支援金／テルモ生命科学芸術財団／AINプログラム | 「食と健康」国際協力支援プログ

ラム／大阪コミュニティ財団（青少年の健全育成）／連合・愛のキャン「中央助成」／国際協力財団「国際協力 NPO 助成成長型事業 ムラのミライ・伴走支援事業」／みてね基金／新公益連盟／新型コロナ緊急対策基金／庭野平和財団 NPF プログラム「緊急助成」／ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京（SVP東京）／『街の灯』支援事業（特別枠）コロナ禍を乗り越えるための支援／持続化給付金

コロナ禍で感じたPLASの強さ

様々なことが変わる中、力をあわせ柔軟に

リアルでは一度もあったことのないインターン生を迎え、リアルで会うこともないまま卒業を迎える…とても不思議な状況が続いた今年。

そんな中で感じたのは、PLASのスタッフ/インターン生の積極性とコミュニケーション力の高さでした。朝のチェックインや、ざっくばらんに話のできるおやつトーク、週末のランニングの合計距離でフルマラソンを走るPLAS運動部など、アイデアを持ち寄って、オンラインでは不足しがちなコミュニケーションを補い、楽しく仕事ができるように自発的にはたらきかける。特定の誰かが、ではなく、全員がはたらきかけ、全員がコミュニケーションを楽しんでる。そんなスタッフ・インターン生に恵まれていることが、PLASというチームの強さだなど、あらためて感じた1年でした。



広報・国内事業担当
下久禰愛



多くの仲間と共に

PLASを支える仲間たちの声

PLASの活動には多様なバックグラウンドの方たちが関わっています。ご支援者の皆さまをはじめ、理事やインターン生などさまざまな関わり方で活動に携わっていただいています。2020年度もたくさんのご支援・お力添えをいただきました。心より感謝申し上げます。



現場の声を尊重し、スピード感ある実行力をこれからも

これまでの継続的な支援から、新型コロナ拡大の影響に対する緊急支援など現場の意見を尊重し、適切なサポートを素早く実行できるところがPLASの強みだと思っています。新たなビジョン・ミッションの下、アフリカの取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会作りに寄り添う、PLASのさらなる取り組みに期待しています！（理事 横山裕司さん）



ひとり一人に寄り添う支援を応援したい

PLASさんからの活動報告のメールやイベントでの経験談から、海外や日本の社会問題を私自身が見て見ぬふりをしていただけると教えてもらっています。ケニアやウガンダの子どもやお母さんの、一人ひとりの顔を見て自立や成長を支援して、それを実現するベストな支援体制を磨き続けるPLASさんは、本当に魅力的です。（マンスリーサポーター 都留健司さん）



PLASの温かさが大好きです

アフリカの受益者の方からの声や様子がよく届き、やりがいを感じて働きやすかったです。また、インターン生という立場でも様々な仕事を体験させて頂き、良い経験になりました。これからも愛に溢れた温かいPLASであってほしいなと思います。ずっと応援していますし、私自身も負けなように成長していきます！（元事務局インターン 佐藤友莉菜さん）

活動計算書

活動計算書

2019年10月1日から2020年9月30日まで

(単位:円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	102,000	102,000
2. 受取寄附金		
受取寄附金	20,097,049	20,097,049
3. 受取助成金等		
受取民間助成金	11,052,754	
受取補助金	2,504,907	13,557,661
4. 事業収益		
普及啓発事業収益	360,800	360,800
5. その他収益		
受取利息	1,506	
雑収益	5,146	6,652
経常収益計		34,124,162
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	8,494,466	
法定福利費	1,344,014	
人件費計	9,838,480	
(2) その他経費		
業務委託費	8,731,060	
印刷製本費	8,180	
会議費	32,109	
旅費交通費	788,594	
通信運搬費	180,485	
消耗品費	708,340	
地代家賃	143,991	
賃借料	45,372	
保険料	33,070	
諸会費	10,000	
研修費	8,000	
支払手数料	871,832	
雑費	11,699	
その他経費計	11,572,732	
事業費計		21,411,212
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	1,000,000	
法定福利費	158,222	
人件費計	1,158,222	
(2) その他経費		
業務委託費	63,220	
印刷製本費	38,722	
会議費	14,685	
旅費交通費	68,069	
通信運搬費	80,132	
消耗品費	20,301	
地代家賃	1,550,535	
諸会費	46,000	
研修費	500	
支払手数料	1,167,408	
雑費	138,667	
その他経費計	3,188,239	
管理費計		4,346,461
経常費用計		25,757,673
当期正味財産増減額		8,366,489
前期繰越正味財産額		6,543,364
次期繰越正味財産額		14,909,853

「受取寄附金」には、マンスリーサポーターや個人からの都度寄付、法人寄付のほか、チャリティオークションの寄付などが含まれます。

「受取補助金」には、今年度開始したJICA草の根技術協力事業の資金が含まれています。

「事業費」にはアフリカでの支援活動と日本での啓発活動の両方が含まれます。

「業務委託費」は、主に現地パートナー団体と共にすすめる支援事業に係る費用です。例えば緊急支援事業では食糧の購入費や配布のための交通費などはこの部分に該当します。

「旅費交通費」はCOVID-19の影響によるリモートワークや現地渡航の中止によって通常より支出が少なくなりました。

「支払手数料」には海外送金や寄付の決済の際の手数料が含まれます。

貸借対照表

貸借対照表

2020年9月30日現在

(単位:円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	16,296,094		
流動資産合計		16,296,094	
2. 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			16,296,094
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	686,021		
預り金	700,220		
流動負債合計		1,386,241	
2. 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			1,386,241
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		6,543,364	
当期正味財産増減額		8,366,489	
正味財産合計			14,909,853
負債及び正味財産合計			16,296,094

【注記】 用途等が制約された寄付等の主なものの内訳は以下の通りです。当法人の正味財産は14,909,853円ですが、そのうち2,905,207円は新型コロナウイルスアフリカ緊急支援事業に使用される財産です。

監査報告書

監査報告書

特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS

代表理事 門田 瑠衣子様

2020年12月15日


監事 藤本 俊明

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS の2019年度（2019年10月1日～2020年9月30日）の業務及び会計の状況について監査を実施いたしました。

監査の方法は、重要な会議の議事録その他の重要資料を閲覧するほか理事から事業の報告を聴取し、また財産の状況については証拠書類の閲覧、照合、質問等を行いました。

監査の結果、法人の業務の執行に関しては法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理は NPO 法人会計基準及び一般に公正妥当と認められる会計の方法によって適正に処理されているものと認められた。

以上

藤本 俊明 

予算・実績対比

項目名		予算	決算	予算差異 の説明	予実%	
経常収益	会費	220,000	102,000		46.36%	
	寄付	16,404,000	20,097,049	①	122.51%	
	助成金・補助金	11,629,000	13,557,661	②	116.58%	
	事業収益	720,000	360,800	③	50.11%	
	雑収入	0	6,652		-	
経常収益計		28,973,000	34,124,162		117.78%	
経常費用	事業費	人件費	10,048,952	9,838,480		97.91%
		その他経費	12,172,313	11,572,732	④	95.07%
		事業費計	22,221,265	21,411,212		96.35%
	管理費	人件費	1,200,000	1,000,000		83.33%
		その他経費	4,863,296	3,346,461	⑤	68.81%
		管理費計	6,063,296	4,346,461		71.68%
	経常費用計		28,284,561	25,757,673		91.07%
経営増減額		688,439	14,909,853		2165.75%	

- ①チャリティオークションにて、予想以上のご協力、ご支援をいただきました。600万円の目標に対して約820万円が集まりました。
 ②新型コロナウイルスアフリカ緊急支援に多数のご助成をいただきました。一方で予定していたJICA草の根技術協力事業の実施が遅延し、補助金については予算を大幅に下回りました。
 ③新型コロナウイルス感染症の影響により対面型のイベントを中止したため。
 ④新型コロナウイルス感染症の影響により事業が一時中断、遅延したため。
 ⑤新型コロナウイルス感染症の影響によりリモートワーク体制となり、交通費、通信費、消耗品費、印刷代などが予算を下回りました。

みなさまのご支援が原動力に

新型コロナウイルス感染拡大にチャレンジした1年

2020年度は収入が3400万円を越え、前年比1.8倍と過去最高となりました。後押ししたのはアフリカ緊急支援へのご寄付の広がりでした。日本も多くの困難に直面したにも関わらず、多くのご支援をいただきました。また、緊急支援へ多数の助成金に申請、採択されました。

一方で、現地渡航は大きな制限があり2020年度は新型コロナウイルス感染拡大前の1回のみ。しかし、現地パートナーと協議を重ね計7回の緊急支援プロジェクトを実施できました。そのため、主に現地パートナーと実施する事業にかかる業務委託費は前年比2.2倍となりました。

来年度も皆様とともに「取り残された子どもたちが前向きに生きられる社会」を目指し尽力します。応援どうぞよろしくお願い致します。

事務局長
小島美緒



Thank You



PLAS



ご支援、ご協力をお願いします

サポーター

月1000円～の寄付
で子どもたちを支
援するマンスリー
サポーターにご支
援・ご参加をお待
ちしています！



SNSでPLASとつながる

様々なSNSでアフリカから
のレポートやPLASの最新情
報をお届けしています。
ぜひPLASとつながってくだ
さい！



特定非営利活動法人

エイズ孤児支援NGO・PLAS

<https://www.plas-aids.org/>

〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402号室
03-6821-1758 info@plas-aids.org

理事：門田溜衣子（代表理事）、一宮暢彦（副代表理事）、谷澤明日香、加藤琢真、小島美緒、鶴見和雄、横山裕司、藤本俊明（監事）

設立：2005年12月

